

Sさん、解雇撤回を求めて係争中

ブルーマチックジャパン(株)

Sさんは19年1月、ブルーマチックジャパン(「コーヒー抽出機の輸入、製造、販売等」)に入社。採用時の説明では、主な業務は「新卒採用」とのことでしたが、実際は、メンタル不調で休みがちな社員たちの対応を任せられました。同年3月には、その対応をめぐる理不尽に叱責されるなどしてSさん自身がメンタル不調に陥り、同年8月に「うつ病」と診断されました。Sさんは治療しながら

勤務していましたが、21年1月に退職勧奨を受け出社も禁じられました。弁護士を通じて文書を送ったところ、今度は出社するよう求められたため、Sさんはユニオンに加入して交渉を開始。復職条件あるいは退職を前提とした金銭解決も模索しましたが、合意に至りませんでした。その後、会社は労働委員会にあつせん申請しましたが、結局、

会社から一方的に取り下げられました。Sさんは21年7月に労災申請しましたが、22年5月に不支給となり、現在は審査請求中です。会社は22年12月にSさんを解雇。Sさんは地位確認などを求め、23年9月28日に横浜地裁に提訴しました。裁判はウエブで行われています。

1/20

第16回 脱原発学習会

ユニオンショック

2024年2月 319号

よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX045-575-1948
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp
ホームページ http://yuniyoko.sakura.ne.jp
組合費納入 横浜銀行 鶴見西口支店 普 1309777
郵便振替 00230-4-30435 よこはまシティユニオン

港町診療所 2F 会議室にて 13:30 ~ 16:15

少しずつ学ぼう!



「知らなかった」では済まされないから

1年ぶりに開催した脱原発学習会に15名が参加。まず、能登半島地震と志賀原

発について日和田委員長がレクチャー。説明が非常にわかりやすく勉強になったと好評でした(裏面参照)。

東電と九電に対し被ばく労働の損害賠償を求めている「あらかぶ裁判」や、被ばく労働に関する団交を拒否している竹中工務店の「不当労働事件(東京都労働委員会)」の経過報告もありまし

最低賃金を全国一律1500円に!



連休中日の2月11日。多くの人を楽し気に行き交う横浜駅前で、組合員ら15名が10時から脱原発ピラを配布。11時から、全国ネット一斉アクションの一貫として、「最低賃金どこでも1500円に!」と訴えながらお札びらを配布しました。

次回の脱原発ピラまきは3/11(月)17時~JR関内駅頭で行います。13周年です。奮ってご参加ください!

た。その後、鎌仲ひとみ監督のドキュメンタリー映画「カノンだより4」を鑑賞し、参加者が順番に感想や意見を述べ合いました。

▼参加者アンケートより、一部抜粋

・報道もされなかったが、今回の地震で志賀原発だけ無傷とは考え難い。情報を連携して共有する事が大事だと思う。

・福島原発事故の後、「原発は危ない」という空気があつたが、今回の地震で「原発はダメ」「再稼働反対」となるはずが、そうならない。

・「カノンだより」は、福島原発事故が起こったなかで、政府の進める原発推進はオカシイ、少しでも変えていこうとする姿が伝わってきた。ユニよこが「フクシマを忘れない」と地道にピラまきを続けている事が重要であると再認識した。

・「福島原発事故は無関心の結果ではないか」という若い人の言葉が印象に残った。理不尽を許さない生き方!

・学ぶことの大切さをひしひしと感じた学習会でした。

一月二十日の脱原発学習会の内容を要約しました。

もしも、珠洲町に 原発ができてたら

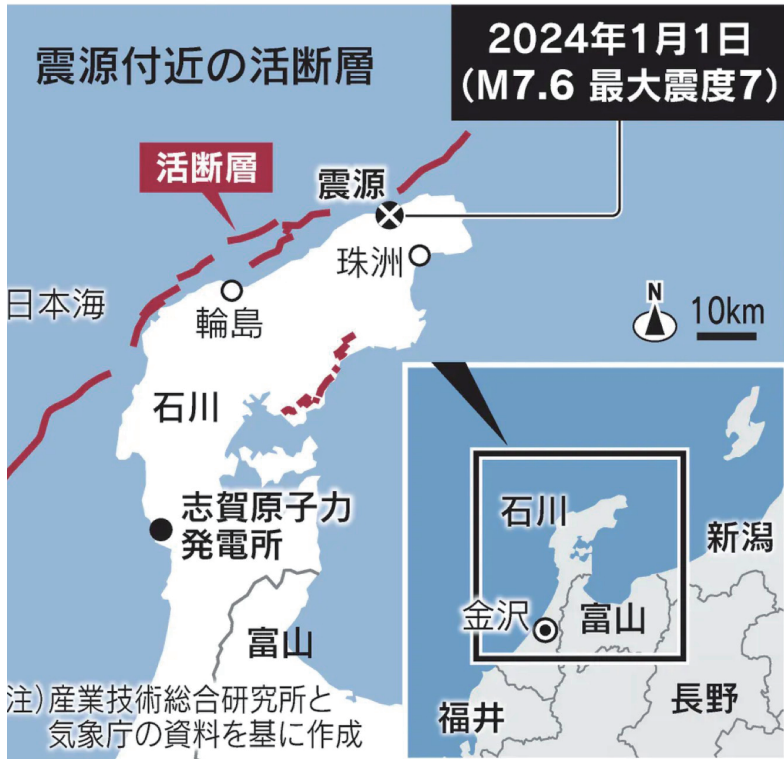


1月1日、能登半島を襲ったマグニチュード7.6の大地震は、震度7の激震と津波で大きな被害をもたらしました。230人以上が亡くなり、今だに多くの人が避難を余儀なくされています。

今回の地震で動いた能登半島北側の断層は、予想よりもはるかに長い150キロにおよび、地面が4メートル隆起したところもあります。木造住宅の多くが崩壊し、道路はあちこちで寸断されました。日本は、このような大地震がいつどこで

起きてても不思議ではない世界一の地震大国だということを、とても思い知らされました。そして、ズタズタに道路が寸断された真つ只中にあったのが志賀原発であり、震源の近くで住民が孤立してしまったのが、20年前まで原発の建設計画があった珠洲町です。

珠洲原発の建設計画は、地元住民の28年もの粘り強い反対運動で凍結されました。安全だから、と原発の予定地になった「高屋地区」



注)産業技術総合研究所と気象庁の資料を基に作成

北陸電力は、志賀原発には大きな被害はない、問題ないと発表しましたが、実際には、変圧器の配管から約2万リットルの油(冷却・絶縁用)が漏れ、電源の半分以上の50万ボルトを失うなど、大きなダメージを負っていました。油の一部は海に流失しています。使用済み燃料プールでも水が溢れ、取水槽の水面は、津波によって3メートルも変化していました(後から訂正して発表)。敷地内にも段差や亀裂ができ、原発事故の時に避難する計画だった道路は、11の路線のうち7つの路

線が通行止めになりました。10年以上運転が止まっている志賀原発ですが、もし運転中に地震が起きていたら、住民が避難することもままならず、事故を収束させる人や物も近づけない最悪の事態になりかねませんでした。しかも、周辺の18のモニタリングポストがデータを送れなくなったため、一部の地域で放射能漏れがないかどうか把握できなくなっていました。

再稼働できるような心から願っている」とハッパをかけた。能登半島で群発地震が続いていたにもかかわらず、です。地震の惨状が伝えられた後、東大大学院(原子力工学)の岡本教授は、「志賀原発の再稼働を遅らせるほどの事態は発生していない」「再稼働に向けた審査を進めるべきだ」と発言しています。原子力力の発想の恐ろしさです。

今後の主なスケジュール

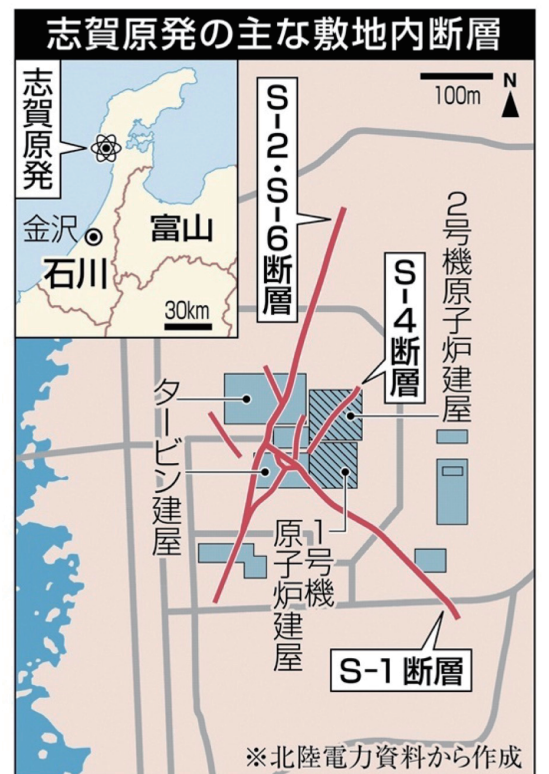
- 2/20 ㊤ メンタル被災者交流会 ▼ 13:30 港町診療所 2F
- 2/26 ㊤ ニッセイ県労委あっせん ▼ 13:00
- 2/28 ㊤ 首都圏ネット一日行動 ▼ 10:00JR 品川駅港南口
- 2/29 ㊤ ブルーマチックジャパン裁判 ▼ 10:00 ウェブ
- 3/01 ㊤ 執行委員会 ▼ 18:30 オフィス 303
- 3/11 ㊤ 脱原発ピラマキ ▼ 17:00 関内駅前(スタジアム側)
- 3/13 ㊤ あらかぶ裁判 ▼ 13:15 東京地裁 101号法廷
- 3/15 ㊤ 神奈川春闘共同行動 ▼ 詳細後日

大丈夫ではなかった志賀原発 避難計画道路は通行止め



の海岸線は、今回の地震で数メートル隆起しています。その上に原発が建って

いたら、フル出力で運転中だったら、一体どうなっていたのでしょうか。



※北陸電力資料から作成

リレーエッセイ 私とユニオン

㊤喜多村さん

今から50年以上前、アルバイトをしていた自治体の職員採用試験を受けたところ不合格。理由が結核回復者であるという理不尽な事だったので、これは「就職差別である」と闘ったのが私の原点です。

その後、息子の保育園で手話と出会いました。手話通訳者になってから健康問題にぶつかることとなり、よこはまシティユニオンと深い関係になりました。ユニオンの中は楽しいのですが、外に出ると共に闘ってくれる人がなかなか増えないのが悩みです。団塊の世代のため、いつもひとくくりで批評されることが多く、生まれてから死ぬまでひとくくりだなと感じています。何も言われたいよりは良いですけどね。